

## 05 確率の基礎②（独立・期待値）

---



# 1. 独立・期待値

今日は、確率を使って「未来の予想」をする方法を学びます。

- ・ **独立**：前の結果が、次に「関係（かんけい）しない」こと。
- ・ **期待値**：1回あたり「だいたいこれくらい」という見込み。
- ・ **実習**：自分の手と Excel を使って、期待値を計算します。

「たった1回の結果」で一喜一憂せず、長い目でデータを見る力をつけましょう。

# 講義の狙い

---

独立を知ることで勘違いを防ぎ、期待値で損得を数字で判断できるようにします。

## 2. 独立：前の結果は、次に関係しない

2つの出来事があり、1回目の結果が2回目の確率を変えないとき、これを**独立**と言います。

- ・意味：前に何が起きても、次の確率は「リセット」されます。
- ・例：コイン投げ

1回目に「表」が出たからといって、2回目に「裏」が出やすくなることはありません。コインは前のことを行えていないからです。

# 独立

---

独立 = まわりの影響を受けない、というイメージを伝えます。

### 3.【問い合わせ】「そろそろ当たるはず」は本当？

あるゲームのガチャで、当たる確率が 10% だとします。9 回連続で外れました。

問い合わせ：10 回目に当たる確率は、10% より高くなっていますか？

1. 高くなっている（次こそは当たるはず！）
2. 低くなっている（今日は運が悪いから当たらない）
3. 変わらず 10% である

(答えは次のスライドで説明します)

# 直感のミス

---

人間が陥りやすい思い込みを指摘します。

#### 4.【答え】独立なら、確率はいつも同じ

正解は「3. 変わらず 10% である」です。

- ・ 理由：ガチャが独立な仕組みなら、1回目も 10 回目も、当たる確率は同じです。
- ・ 注意：「10 回やれば 1 回は当たるだろう」というのは、やる前の予想です。「目の前の 1 回」の確率は、前の結果に関係なく 10% のままです。

統計では、気持ちや運ではなく、この「独立」というルールで冷静に考えます。

# 解説

---

単発の確率とセットの確率を分けて説明します。

## 5. 期待値：1回あたりの「平均的な見込み」

期待値（Expected Value）とは、1回やると「平均してどれくらいの結果になるか」を計算した数字です。

- ・ イメージ：もらえる金額や点数の「平均的な予想」。
- ・ 使い方：「その勝負（しょうぶ）をするべきか、やめるべきか」を判断する材料になります。

期待値を知ることで、損か得かを数字で見ることができます。

# 期待値

---

期待値 = 将来もらえる平均的な値、と定義します。

## 6. 期待値の計算の手順

期待値は、次の「3ステップ」で計算します。

### 期待値の計算ルール

$$\text{期待値} = \sum (\text{もらえる値} \times \text{その確率})$$

### 計算の手順：

1. どんな「結果（値）」があるか全部書き出す。
2. それぞれの「確率」を調べる。
3. 「値 × 確率」を計算して、全部足し算する。

# 手順

---

掛け算をしてから足す、という流れを強調します。

## 7. 期待値の計算例：サイコロの目

普通のサイコロを1回振るとき、出る目の期待値を求めます。

出る目 ( $x$ )	1	2	3	4	5	6
確率 ( $p$ )	$1/6$	$1/6$	$1/6$	$1/6$	$1/6$	$1/6$

期待値の計算：

$$E = (1 \times \frac{1}{6}) + (2 \times \frac{1}{6}) + (3 \times \frac{1}{6}) + (4 \times \frac{1}{6}) + (5 \times \frac{1}{6}) + (6 \times \frac{1}{6})$$

$$E = \frac{1+2+3+4+5+6}{6} = \frac{21}{6} = 3.5$$

解釈：サイコロを何回も振ると、1回あたりの平均は 3.5 に近づきます。

## サイコロの例

---

3.5 という目は実際には出ませんが、これが「平均的な見込み」であることを強調します。

## 8. 平均と期待値

どちらも「データの真ん中」のことですが、時間の向きが違います。

- ・ **平均**：すでに起きた「過去」のデータの真ん中。
- ・ **期待値（今日）**：これから起きる「未来」の予想の真ん中。

**つながり**：過去と同じ割合で何かが起きるなら、「過去の平均」は「未来の期待値」と同じになります。

# 平均との差

---

集計（過去）と予測（未来）の違いを伝えます。

## 9. 実習1：賞金の「見込み」を計算しよう

以下のくじがあります。1回あたりの期待値はいくらですか？

- ・ 1等：10,000 円（確率 1% = 0.01）
- ・ 2等：500 円（確率 10% = 0.10）
- ・ ハズレ：0 円（確率 89% = 0.89）

ヒント： $10,000 \times 0.01 = 100$ などを計算して、最後に全部足し算してください。

# 実習 1

---

自分の手で計算させます。答えは 150 円。

## 10.【答え】期待値の活用方法

計算の答えは 150 円 です。これがこのくじの「価値（かち）」です。

- ・ 判断のポイント：
- ・ もしこのくじが 200 円 で売っていたら？
- ・ → 期待値（150 円）より高いので、やり続けると損をします。

期待値を使えば、このように「損か得か」を冷静に比べることができます。

# 解説

---

期待値が公正な価格を見極める道具になることを話します。

## 11. 期待値で「仕事」を選ぶ

期待値を使えば、違う種類のチャンスを同じように比べられます。

どちらのプロジェクトが「得」か？

- ・ プラン A：20%で 500 万円儲かるが、80%はゼロ。
- ・ プラン B：50%で 200 万円儲かるが、50%はゼロ。

計算の結果：どちらも期待値は 100 万円 です。同じ土俵で比べることができました。

# ビジネス

---

期待値で選択肢を整理するメリットを伝えます。

## 12. 繰り返すと期待値に近づく

期待値が「長い目の平均」と言われる理由です。

- ・ **性質**：1回ごとの結果はバラバラでも、何百回と繰り返すと、実際の平均は「期待値」にそっくりになります。
- ・ **例**：コイン投げ 10 回投げると偏ることもあるが、1万回投げれば表の割合はほぼ 50% になります。

(この詳しいルールは別の授業で学びます)

# 補足

---

短期的な荒れと長期的な安定について教えます。

## 13. 実習 2 : Excel でコイン投げをシミュレーション

Excel の乱数（ランダムな数字）を使って、コイン投げをします。

操作：

1. A1 セルに =RANDBETWEEN(0, 1) と入力 (0=裏、1=表)。
2. A100 までコピーします。
3. B1 セルに =AVERAGE(A1:A100) と入力します。

F9 キーを押すと数字が変わります。A 列（個別の結果）は激しく変わりますが、B1 (平均) は 0.5 の近くで安定しませんか？

## 実習 2

---

F9 キーで再計算させ、独立性と安定性を体感させます。

## 14. 実習 2 のまとめ：ミクロはカオス、マクロは秩序

今の Excel 操作で分かったことは次の通りです。

- ・個々のセル（独立）：0 か 1 か全く予想できません。
- ・全体の平均（期待値）：100 個集まると、ほぼ 0.5 になります。

統計学は、この「バラバラな出来事（独立事象）」をたくさん集めて、「確かな予測（期待値）」に変える学問です。

## 実習 2 解説

---

個別の不確かさが集団の確かさに変わる面白さを伝えます。

## 15. 実習 3：Excel を使って期待値を計算する

先ほどの「実習 1」のくじ引きを、Excel の表で作ってみましょう。

1. A2:A4 に「賞金 (10000, 500, 0)」を入力。
2. B2:B4 に「確率 (0.01, 0.1, 0.89)」を入力。
3. C2 に  $=A2*B2$  と入力し、C4 までコピー。
4. C5 に  $=SUM(C2:C4)$  で合計を出す。

# 実習 3

---

計算プロセスを Excel のセルに対応させることで、実務への繋がりを作ります。

## 16. Excelで計算するメリット

なぜ手計算ではなく Excel を使うのでしょうか？

- ・ **理由**：確率や金額が変わっても、数字を打ち替えるだけで期待値がすぐに再計算されるからです。
- ・ **応用**：「もしハズレの確率を少し減らしたら、期待値はいくら上がるか？」といったシミュレーションが瞬時に行えます。

期待値はビジネスの「シミュレーション」に欠かせないツールです。

# 実習 3 解説

---

静的な計算から動的な分析への意識変容を促します。

## 17. 注意！確率の落とし穴

ミスを防ぐためのチェックポイントです。

- ・ **分母を決める**：必ず「全パターン」を先に数えましょう。
- ・ **主観を入れる**：「昨日も雨だったから、今日は晴れるだろう」といった主観を捨て、客観的な比率で考えます。
- ・ **独立を忘れる**：前の結果に引っ張られず、現在の確率を確認しましょう。

# ミス防止

---

典型的なミスを言語化し、演習時の混乱を防ぎます。

## 18. まとめ：なぜ記述統計から始めたのか

これまでの学習を繋げましょう。

- ・ **記述統計**：過去のデータを集計して「分布（形）」を見ました。
- ・ **確率**：その「分布」から、次に起こる「期待値」を考えました。

データから「形」を見つけ、そこから「将来」を見通す。これが統計学の流れです。

# 全体の繋がり

---

第1回からの一貫性を確認します。

## 19. 今日のまとめ

- ・ **独立**：前の結果は次に影響しない。
- ・ **期待値**：期待値 =  $\sum(\text{値} \times \text{確率})$ 。長い目で見たときの平均。
- ・ **予測**：過去のデータ（平均）から、未来の確率（期待値）を考えることができます。

期待値を使えば、不確実な未来も数字で考えることができます。

# まとめ

---

最重要ポイントを再度復唱します。

## 20. 次は「データの形」を学びます

今日は「1回あたりの平均（期待値）」という「中心」の数字を学びました。

- ・次回（第5回）：確率分布
- ・内容：期待値のまわりに、どのようにデータが広がっているか、その「形」をグラフで見ていきます。

お疲れ様でした。

# 次回予告

---

期待値が次回の「グラフの中心」になることを予告します。